

情 報

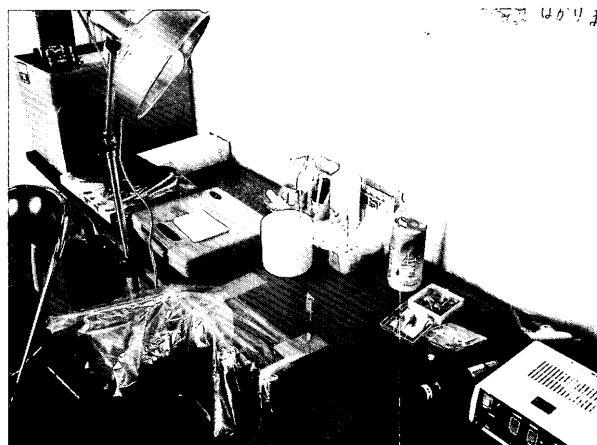
また、この度の経験から歯科技工士も、チーム医療の一員として医療活動に参加するためには、消毒、滅菌に関する知識と、そのための教育が必要であると強く感じたことも加えさせていただきます。



震災により全壊した家屋



治療椅子とその周囲



仮設の歯科技工のスペース

新潟県中越大震災歯科医療救護活動報告 —被災地に想いをよせて—

本間 和代 助教授 歯科衛生士学科

平成16年10月23日（土）午後5時56分地震発生、その時、我々は・・・

本学16年度第2回公開講座を終えて、終業準備をしていたその時、6号館の建物が、過去に経験のない音をたてて激しく揺れた。突然の異変にうろたえていた矢先、また、2度、3度の大きな揺れにみまわれ危険を感じて外に出たのは5分位経過してからである。ラジオを通じて、中越地区に大地震が発生したことを知ることとなった。以後、テレビ、ラジオ、新聞等のあらゆるマスコミは、その悲惨な現状を伝えてきた。

地震発生から2日後、我々新潟県歯科医師会に設置された災害対策本部から、歯科衛生士派遣の要請を受けた。下河辺学長の「万難を排して協力するように」との指示を受けて、その夜から直ちに派遣する歯科衛生士の調整に入ったのである。

10月28日～11月21日までの25日間に亘って続けられた救護活動実績（新潟県歯科医師会対策本部まとめ）および本学教職員の派遣状況を表1に示す。これより、

表1. 新潟県中越大震災歯科救護活動実績
(平成16年10月28日～11月21日)

動員数：歯科医師95人 歯科衛生士132人 歯科技工士17人					
実施地区	小千谷市		川口町	明倫短期大学派遣	
月日（曜）	応急処置 患者数	相談・指導 等受診者数	相談・指導 等受診者数	歯科 衛生士	歯科 技工士
10月28日(木)	4 (1)	65 (5)	—		
10月29日(金)	13 (1)	82 (7)	—	1	1
10月30日(土)	26 (1)	78 (8)	—		
10月31日(日)	10 (1)	72 (3)	—	1*	
11月01日(月)	9 (1)	38 (1)	—	1*	1
11月02日(火)	8 (1)	55 (4)	—	2	
11月03日(水)	6 (1)	22 (2)	—		
11月04日(木)	7 (1)	38 (1)	—	1*	
11月05日(金)	13 (2)	31 (1)	—	1*	
11月06日(土)	7 (2)	46 (4)	—		
11月07日(日)	8 (2)	28 (6)	6 (1)	1	
11月08日(月)	8 (2)	3 (1)	27 (4)		
11月09日(火)	3 (2)	26 (4)	22 (3)	2 (1*)	
11月10日(水)	3 (2)	9 (2)	18 (2)	1*	
11月11日(木)	4 (2)	56 (1)	41 (5)	1*	
11月12日(金)	0 (2)	29 (3)	12 (2)	1	
11月13日(土)	4 (2)	10 (1)	44 (2)		
11月14日(日)	—	9 (2)	32 (2)	1	
11月15日(月)	—	37 (2)	33 (6)		
11月16日(火)	—	6 (2)	22 (4)		
11月17日(水)	—	7 (2)	20 (2)	1	
11月18日(木)	—	8 (3)	48 (2)	1*	
11月19日(金)	—	19 (2)	18 (2)		
11月20日(土)	—	12 (2)	50 (3)	1	
11月21日(日)	—	21 (1)	26 (2)		
合 計	133 (26)	807 (73)	419 (42)	17	2

() 内：救護活動を行った箇所数 新潟県歯科医師会まとめ
* 附属歯科診療所所属

情 報

小千谷総合保健センターおよび小千谷市総合体育館等において応急処置を行った患者数は133人（26ヵ所）、相談・指導等の受診者数は、小千谷市が807人（73ヵ所）、川口町が419人（42ヵ所）の計1359人（141ヵ所）であった。

派遣体制を整えるため、被災地の状況を把握することが第一と考え、29日に先発として小千谷市へ入った。以後、歯科衛生士学科教員6人、附属歯科診療所職員8人の延17人が休日、祝日を問わず救護活動に携わった。その活動内容は、地震発生からの経過日数や被災地域によって刻々と変化していったが、個々の報告書からまとめると、表2に示すとおり多岐に亘った。



小千谷市総合体育館の避難所における救護活動

表2. 明倫短期大学派遣歯科衛生士の活動内容

月日（曜）	参加者名	チーム	活動場所	活動内容
10月29日(金)	本間 和代	避難所支援	小千谷市内避難所	避難所巡回救護物資配布、避難所高齢者の心のケア活動
10月31日(日)	小林 梢*	歯科診療	小千谷総合保健センター	救急患者歯科治療補助、歯科相談・指導
11月01日(月)	生野 美絵*	歯科診療	小千谷総合保健センター	救急患者歯科治療補助、歯科相談・指導
11月02日(火)	上原 愛	歯科診療	小千谷総合保健センター	救急患者歯科治療補助、歯科相談・指導
〃	和田麻衣子	歯科診療	小千谷総合保健センター	救急患者歯科治療補助、歯科相談・指導
11月04日(木)	野崎 玲美*	歯科診療	小千谷総合保健センター	救急患者歯科治療補助、歯科相談・指導
11月05日(金)	小林香菜子*	歯科診療	小千谷総合保健センター	救急患者歯科治療補助、歯科相談・指導
11月07日(日)	上原 愛	歯科診療	小千谷総合保健センター	救急患者歯科治療補助、歯科相談・指導
11月09日(火)	江川 広子	避難所支援	川口町木沢小学校、あおりの里	義歯・口腔清掃、歯科相談・指導、心のケア活動
〃	水橋 庸子*	避難所支援	川口町木沢小学校、あおりの里	義歯・口腔清掃、歯科相談・指導、歯科予防製品等配布
11月10日(水)	白川 淳子*	避難所支援	川口町和南津地区、あおりの里	義歯・口腔清掃、歯科相談・指導、心のケア活動
11月11日(木)	池田 紘子*	避難所支援	小千谷市総合体育館、避難所	義歯・口腔清掃、歯科相談・指導、歯科予防製品等配布
11月12日(金)	平澤 明美	避難所支援	川口町牛が島、相川、武道窪地区	義歯・口腔清掃、歯科相談・指導、心のケア活動
11月14日(日)	和田麻衣子	避難所支援	川口町和南津地区、あおりの里	義歯・口腔清掃、歯科相談・指導、歯科予防製品等配布
11月17日(水)	渡辺 美幸	避難所支援	川口町木沢小学校、末広荘	義歯・口腔清掃、歯科相談・指導、歯科予防製品等配布
11月18日(木)	小倉 英理*	避難所支援	川口町和南津地区、生涯学習センター	義歯・口腔清掃、歯科相談・指導、心のケア活動
11月20日(土)	本間 和代	避難所支援	川口町相川・牛が島地区	義歯・口腔清掃、歯科相談・指導、心のケア活動

* 附属歯科診療所所属

前半は歯科支援物資の避難所への配布から始まり、救急患者歯科治療の診療補助、歯科相談・指導、高齢者や子供を中心とした心のケア活動が中心となった。被災者が避難所から自宅に戻り始めた後半は、地域の集会所、老人福祉施設、自宅等を一軒づつ訪問しながらの義歯・口腔清掃、歯科相談・指導、歯科予防製品や消毒剤の配布、地域住民の心のケア活動に変わっていった。

それらの活動を通して、今まで見たことのない大きな仮設テント・風呂・トイレなどの被災地の生活環境、車中泊の様子、被災者は勿論のこと県内外からの多くのボランティアの活動、自衛隊員の支援活動等、

参加した一人一人の歯科衛生士が、掛け替えのない多くのことを学び、体験した。

私にとって、中越地区は20数年間、学生募集のための広報活動に、毎年、春秋の2回、同僚と車を走らせた地域であり、関越自動車道や国道17号線からみる景色はことのほか懐かしい風景であった。しかし、被災地に入った途端、高校周辺の町並みや卒業生が働く歯科医院、いつも立ち寄った休憩場所などあちらこちらの思い出の建物が、無残に破壊された光景を目の当たりにし、声も出せない状況に陥った。気を取りなおして、地元歯科医師会の先生方の先導により、どれだけ多くの避難所を回ったことだろう。被災地の記録を残

情 報

そうとポケットに忍ばせたカメラを被災者に向けて撮ることは、とうとう最後までできなかった。特に、訪問の都度、若者で賑わっていた小千谷高校の避難所に入ったときは、受験シーズンを迎えた高校生が、何時またこの校舎に戻って勉強を開始できるのだろうか、本当に心が痛んだ。

小千谷到着直後に、歯科的支援よりも避難先の高齢者の心のケアをまず第一にやって欲しいと関係者に言われた時、地震発生から6日目、いかに被災者のショックが大きいか伝わってきた。小さくうずくまって口数少なく頑張っていた高齢者に「仮設トイレが出来て良かったですね」と声掛けをしたとき、「手すりがないからそこまで行くことも、トイレに這い上がることもなかなか出来ない。」という切実な言葉が返ってきた。まさに、高齢者を多く抱えた山間型中越地震の問題点を見た思いがした。



集落での歯科相談・指導

明日で救護活動を終了するという11月20日に、最も被害の大きかった川口町の支援に入った。山間の各集落を一軒一軒訪問しながらの活動は、倒壊した家屋の片付けに呆然としている住民に声掛けするだけでも心苦しいことであった。それでも、私たち支援チームに手を休めて義歯の相談をしてくれたお年寄り、お孫さんの虫歯予防の相談をしてくださった主婦、地震のなかでも野菜が漬かっていたからとすすめて下さったお婆ちゃん、「そんなに私達に気をつかわないで、被災者は皆さんなんですから」と心で呟きながら、25日間の活動を終えた。

この救護活動は、必ずしも被災者のニーズに十分応えうるものでなかったかも知れない。しかし、被災された多くの人々の悲しみ、苦しみ、辛さを共有した私たちは、冬の生活の厳しさを心配しながら、一日も早い復興を願って、今も被災地に心を寄せている。

最後に、多くの教訓を得る機会を与えて下さった理事長、学長先生はじめ教職員の皆様に感謝し、この体験を今後の緊急時に活かしていきたいと思います。

附属歯科診療所活動報告

野村章子¹⁾、金子 潤²⁾、江川広子³⁾

附属歯科診療所

¹⁾ 診療所長 ²⁾ 副診療所長 ³⁾ 歯科衛生士長

平成16年度4月より新たに構成された診療所運営メンバーは、野村章子診療所長、金子 潤副診療所長、市川伸彦医長、江川広子歯科衛生士長、水橋庸子副歯科衛生士長である。そこに、診療所専任として歯科医師5名（非常勤2名を含む）と歯科衛生士9名、受付事務職員1名、教育系では歯科医師6名、歯科衛生士5名（非常勤1名を含む）、歯科技工士5名、学外の歯科技工所（沖歯科工業株式会社）の出向歯科技工士2名が参画している。10月1日には、日本全国でおそらく唯一の歯科診療所内ことばクリニックが開室し、伊東節子室長、診療系言語聴覚士1名、教育系言語聴覚士2名が加わった。本稿では、大学の附属施設として活動した実績を、臨床実習受け入れ状況、社会的活動、毎月1回開催の医局会セミナーおよび研究業績についてまとめた。

1. 臨床実習受け入れ状況

1) 歯科衛生士学科2年生92名

- ・実習期間：平成16年1月5日～12月28日（1グループ9～10週間）
- ・実習体制：7グループ（A～G班）ローテーションで実施
- ・実習内容：歯科予防処置法、歯科保健指導法、歯科診療補助法、歯科口腔介護法

上記の実習を習得することを目的に、

- ①充実した歯科予防処置、歯科保健指導実習
- ②マンツーマンによる歯科診療補助実習および歯科訪問診療における診療補助実習
- ③学校、事業所、介護保険施設等の歯科健診の補助および歯科保健指導実習
- ④西新潟中央病院の入院患者さんへの歯科口腔介護実習

本診療所の特性を活かした内容の実習を取り入れ、他の臨床実習先とは異なる貴重な体験をさせることができた。また、西新潟中央病院での歯科口腔介護を体験し、患者さんの健康の保持に止まらず、生活の質の向上を図れることを学んだ。そして、この活動に対して病院から感謝状を頂いた。

2) 保健言語聴覚学専攻科2年生3名

1名が6週間、ことばクリニックの言語聴覚士と